

日本+小沢大攻勢

減税同盟

遍路道が呼んでいる

いよいよ菅政権は崖っぷちだ。ねじれ国会で公明党にフラれ、社民党との連携に走ったがこれも不透明。3月危機が現実味を帯びてきた。そうした中、小沢一郎元代表と河村たかし名古屋市長率いる減税日本が、減税同盟を結成、菅政権に大攻勢を仕掛ける――。

「そういえば、新進党の時に減税を言ったのはオレだった。やればできる」
 「仲間を大事にしないで政権は運営できないな」
 東京・永田町の衆院第一議員会館605号室。2月8日、河村たかし名古屋市長と大村秀章愛知県知事の

「ムラムラコンビ」の表敬訪問を受けた小沢一郎元代表はそう語った。時折笑みを浮かべながらも、言外に舌鋒鋭く菅直人首相らを批判したのだ。

「作戦の第1弾は、3月13日予定の名古屋市議選（定数75）で過半数を制すること。すでに河村氏は38人の候補擁立を明らかにしています。第2弾は国政進出。4月の衆院愛知6区の補選を皮切りに、減税日本は国政選挙に独自候補を出す方針です。橋下徹大阪府知事率いる大阪維新の会と連携する見通しで今後、減税日本が政界の台風の目になるのは間違いない」
 菅首相は10日、小沢氏と官邸で会談し、「（強制起訴での）裁判が決着するまで党を離れてほしい」と自発的な離党を求めたが、小沢氏は即座に拒絶した。
 「菅氏の狙いは建前は『政治とカネ』問題を決着させたいということですが、本音は減税日本と手を結ぶ小沢氏に脅かされている。最低でも『党員資格の停止』処分まで小沢氏の動きを削ぎたい。増税か減税かという民主党の路線をめぐる新たな

減税同盟の旗揚げ



三者による頂上会談情報はまだたくまに永田町に広まった。会談の内容や狙いは後述するとして、時計の針を2日前の6日に戻そう。「ノルマンディー上陸作戦はこれから。民主主義を名古屋の名物にしたい。手羽先だけじゃやらずせよ」
 愛知県知事選とのダブル選挙となった名古屋市長選。民主党推薦候補に約44万票差をつけて圧勝した河村氏は同日夜、名古屋弁を交えて抱負をブチ上げた。地元ジャーナリストは言う。

「国民生活が第一」といながらも、議員定数削減や国家公務員の人件費カットといった自ら血を出さないまま、いきなりマニフェストを破る形で増税をブチ上げた。菅政権になってからの地方選は連戦連敗です。河村氏が掲げる減税がなぜこんなに支持されたのか。執行部は敗因を徹底分析したほうが良い」
 小沢氏に近い若手議員は言う。
 「今度の通常国会で、予算関連法案などの再可決に必

小沢と河村・大村「コンビ」頂上会談で話されたこと

春3月 減税 菅政権



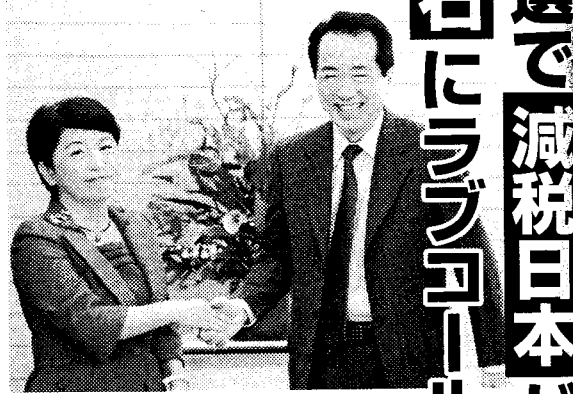
前原氏と岡田氏が輿石氏の取り合い

年金未納問題でお遍路を巡った菅首相(04年7月)

菅首相の国会答弁を聞いてみると、いきなり野党を攻撃するかと思えば、役人の書いた答弁書を抑揚のない。なぜなのか。

「菅首相の国会答弁を聞いてみると、いきなり野党を攻撃するかと思えば、役人の書いた答弁書を抑揚のない

要な(衆院で)3分の2の議席を確保することが重要になるのは分かっていたはず。にもかかわらず、菅首相や岡田さん(克也幹事長)は、現職の石田芳弘衆院議員を辞任させて立候補させ、みすみす1議席を減らした。本来であれば、菅首相や岡田さんは選挙敗北の責任を取ってクビですよ」ところが、党内で政権批判は大きな声になつていない。なぜなのか。



その場しのぎの協力要請

「菅首相の国会答弁を聞いてみると、いきなり野党を攻撃するかと思えば、役人の書いた答弁書を抑揚のない。なぜなのか。」

菅首相の国会答弁を聞いてみると、いきなり野党を攻撃するかと思えば、役人の書いた答弁書を抑揚のない

この会談で一体何が話し合われたのか。民主党関係者は話す。

「小沢氏と河村氏らがタッグを組み、選挙などで協力をしていくことを確認したと

い調子で読むなど気分が浮き沈みが激しい。精神状態が不安定なのです。菅降ろしの声が広がれば、激高して感情的に衆院解散をしかねません。だから声を上げられない。情けない話ですが……(北辰会の若手議員)しかし、ウラでは水面下で新たな動きが進行している。それがはっきりと現れたのが冒頭の頂上会談だ。

▽区長、区議選で減税日本が民主候補を支援
▽前原が輿石にラブコールする意外な理由

処分覚悟でポスターを貼る

ジャーナリストの角谷浩一氏は、解散総選挙に備えた連携もあると見ると、菅首相による破れかぶれ解散の可能性はゼロではない。総選挙になれば、支持

「菅首相による破れかぶれ解散の可能性はゼロではない。総選挙になれば、支持

春3月、小沢、河村両氏の減税同盟が菅政権に大攻勢をかけるという見立てだ。

「(同関係者)春3月、小沢、河村両氏の減税同盟が菅政権に大攻勢をかけるという見立てだ。

「菅執行部への宣戦布告ですよ。社会保障政策を名目にした消費税増税は、財務省の振り付けに乗っているだけと小沢氏は見ている。この不況下、減税日本の旗印である『減税』、『議会・霞が関改革』のほうを国民が求めていると考えているのです。3月下旬から始まる統一地方選でその旗印を前面に打ち出して戦う構えです。小沢グループはそのお墨付きを頂上会談で得たと受け止めている」(同関係者)

「いわれています」
「続けてこう言う。」
「菅執行部への宣戦布告ですよ。社会保障政策を名目にした消費税増税は、財務省の振り付けに乗っているだけと小沢氏は見ている。この不況下、減税日本の旗印である『減税』、『議会・霞が関改革』のほうを国民が求めていると考えているのです。3月下旬から始まる統一地方選でその旗印を前面に打ち出して戦う構えです。小沢グループはそのお墨付きを頂上会談で得たと受け止めている」(同関係者)

小沢処分問題、愛知ダブル選惨敗、国会運営の行き詰まりなど「失点」が続き、与党内では「ポスト菅」を睨んだ動きが活発化してきた。国民生活そっちのけで内ゲバに明け暮れる菅執行部に愛想を尽かす民主党議員も続出している。「倒閣クーデター」はもはや秒読み段階だ。

民主党の小沢一郎元代表が菅直人首相から離党勧告された翌日（2月11日）、東京では珍しく雪が舞った。小沢氏は自らが主宰する

政治塾の塾生を前に、神妙な面もちでこう語った。

「雪景色というのは人間の気持ちの中で叙情的な気持ちこそそる。だから、雪の日に起こった事件は記憶に残るのだと思う」

そして、同じく雪が舞った1936年2月26日、陸軍の青年将校らが企てたクーデター「2・26事件」に触れ、語気を強めた。

「軍部の暴走というのは一面的な見方で、昭和恐慌というやむにやまれぬ事情があった。地方では娘らを売らなければ食べていけない状況にもかかわらず、政治は不在。『国民の生活を守

る』という政治本来の任務を政治家が全く果たせず、不満が爆発した。この教訓は今も忘れてはならない」

も、衆院の3分の2以上の賛成で再可決すれば成立するが、それには318議席が必要になる。民主党国対幹部が悩ましげに言う。

のホテルで社民党の又市征治副党首らと会談し、予算への協力を要請しました。先方から『普天間、法人税減税はどうするんだ！』などと畳みかけられると柄にもなくテーブルに手をつき、『まあ、それはそれで……』と頭を下げたそうです（民主

訴された小沢氏の処分について、岡田克也幹事長ら党幹部は逡巡し、党内には新たな火種が生まれた。

「民主党と国民新党に与党系の無所属議員を足すと313議席。6議席ある社民党が協力してくればハドルは越せます。ただ、この数には、小沢さんや、元秘書で無所属の石川知裕議員も含まれている。彼らが欠席しただけでも3分の2は危うい。菅さんは何を考

さらに、与党内の足並みの乱れもあらわになってきた。国民新党の下地幹郎幹事長はこう苦言を呈する。「菅さんと与謝野馨経済財政相が増税路線で突っ走れば、社民党は協力しない。予算関連法案が通らないと、菅さんは職務を続けることができないでしょうに……」

「仙谷由人代表代行は『除籍』を主張したそう。岡田さんが合理的に判断し、『党员資格停止』で落ち着くようだが、仲間内では、あんまりひどかったら新党

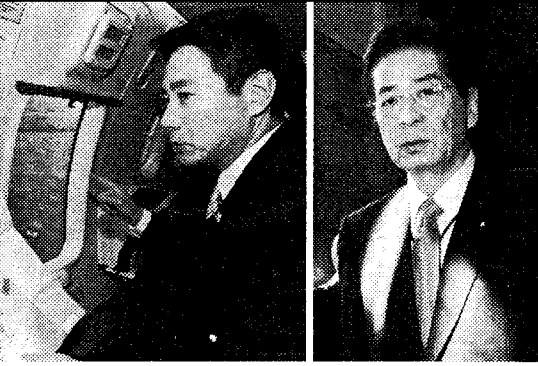
「中間派の勉強会」

政権の先行きを危ぶむ声は、永田町全体に広まっている。民主党内でも「ポスト菅」を睨んだ勉強会が次々に立ち上げられている。

「（小沢氏に近い議員）他方、菅内閣にとつて最大の懸案は、予算関連法案を成立させることだ。野党が多数の参院で否決されて

しかも、頼みの綱の社民党には足元を見られ、協議の窓口役の岡田幹事長は四苦八苦しているという。「岡田さんは7日夜、都内

しかし、その動きは菅 vs. 小沢の図式を超えるものだ。8日に設立された「マニフェスト財源の確保研究

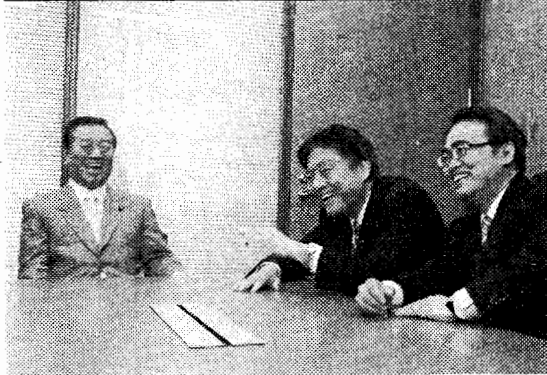


「反仙谷・前原」で走りだした

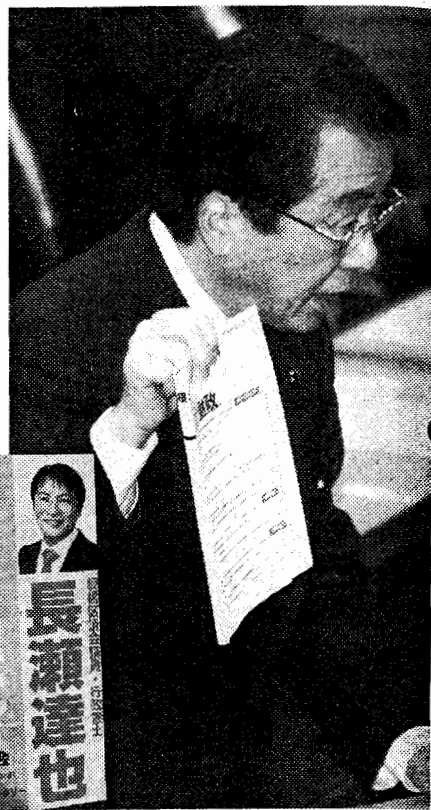
「ポスト菅」レースのダッシュスタート

フェスト財源の確保研究

永田町へ凱旋した河村市長は小沢氏とタッグを結成(左)。都内でもこんなポスターが(下)



「初めは12人だった参加者が、初会合の翌日には60人まで増えた。最終的に100人を超えそうな勢いで」(世話人の一人)
22日には、桜井充財務副



大臣、松本剛明外務副大臣、松井孝治元官房副長官らが呼びかけ人の「政策論議中心の民主党にするフォローアップ会議」も発足する。メンバーは「中間派」というのが建前だ。
「勉強会メンバーの大半は反執行部で、真の目的はポスト菅の主導権を奪うことです。菅政権は長くもたない。次の流れを早くつくりたいと、仙谷さんや前原誠司外相、枝野幸男官房長官ら前原グループに、いいポストをまた全部取られてしまふ」(中間派の議員)
その前原グループに属す

る若手議員ですら、執行部の惨状にはあきれ顔だ。「菅さんと仙谷さんは、予算関連法案が成立しないと、野党へ向かうはずだと思いい込んでいます。そんな訳ないじゃん！ 予算を通すのは与党の責任に決まっていますよ。今の執行部は、こんな当たり前のことすらわからなくなっているんです」
攻める側の自民党の平沢勝栄衆院議員はこう読む。「政局は3月から4月にかけて山場になる。自民党は、子ども手当などの目玉政策を全部見直せと要求している。民主党はのめない。公債特例法などが通らなければ予算を執行できなくなるので、菅さんは予算関連法案への野党側の賛成と引き換えに辞任するしかない。そうして次の首相が誕生するでしょう」

「これが現時点での永田町の「通説」だが、当の民主党内ではこんな悲観論も。「一秒でも長く首相でいたい菅さんは総辞職せず、やけっぱちになって衆院解散に打って出る公算大だ。そうなったら民主党は惨敗し、解党するしかなくなる」
菅首相の下で春の統一地方選を戦わなければならぬい民主党の候補者の中には、元民主党衆院議員の河村たかし名古屋市長詣でに走る人まで出てきた。
東京都板橋区の長瀬達也区議は7日に河村氏と並んだポスターを貼り出した。「2日後に区議団幹部から『これはまずいよ。河村市長は民主党の完全な敵』このままだと東京都連常任幹事会にかかって相応の処分対象になります」という脅しのメールが届きました。はがすつもりはありませんけどね」(長瀬氏)
その河村市長は8日、ダブル当選した愛知県の大村秀章知事と一緒に小沢氏を訪ね、減税政策などで連携することを確認した。
この夜、河村、大

12月号 朝・夕刊全紙面(東京最終版)をコンパクトに収録(索引付き)

朝日新聞縮刷版

FD改ざん事件で大林検事総長引責辞任、後任に笠間氏
幻の魚クニマス70年ぶり生存確認 さかなクンお手柄
小沢一郎氏、政倫審に出席へ 離党圧力をかわす狙い

好評発売中 定価 6000円(税込)
●お近くの書店またはASA(朝日新聞販売所)にお申し込みください。

村岡氏は小沢氏の側近である松木謙公農水政務官らと東京・赤坂の居酒屋へ繰り出した。同席した議員が言う。
「河村さんは『自分を仲間としてうまく使えばよかったのに、敵に回した執行部はバカだ』と怒っていました。松木さんは『小沢さんに万一のことがあれば、われわれは決起する。比例で当選した人を合わせれば40人弱の勢力にはなる』と話していました」
菅政権が身内のクーデターで倒れるXデーは、思った以上に早いかもしれない。本誌・森下香枝、川村昌代

相のお膝元の東京です。すでに始まっている。前出の民主党関係者によれば、練馬、杉並、板橋各区の区長・区議選に出馬する民主党候補の中で、減税日本から支援を受ける予定の候補が相次いでいるという。その一人、長瀬達也板橋区議が話す。

「私は減税日本の政策に共鳴しています。河村さんとのツーショットのポスターを作成し掲示したところ、地元民主党区議団から『反党行為だ』と警告を受けました。しかし、処分覚悟でポスターは貼り続けます。除名されても減税日本から推薦を受けて戦います」

動きは東京だけでない。小沢グループを中心に全国に広がる勢いだという。そうした中、国会の状況を見ると菅政権は野党との連携はほぼ絶望状態。頼みの綱だった公明党も菅首相と「縁切り宣言」をした。「マニフェストは既に破綻している。実現できないなら、国民との契約違反だから国民は契約を解除する権利がある。首相は契約違反の責任をどう取るのか」

9日の党首討論で山口那津男代表は菅首相に厳しく迫った。公明党関係者の話。「マニフェストを守らないウソつきの菅政権と組むことは無理です。協力する余地はほとんど残されていないでしょう」

公明党との連携は難しいと見た菅政権は、かつて連立パートナーだった社民党に秋波を送り始めた。とりわけ熱心なのが、又市征治副党首ら幹部と何度も交渉を重ねている岡田氏だ。

「福島さん、ここにおられるので最敬礼しておきます」(8日の全国郵便局長会新春のつどい)

福島瑞穂社民党党首を前に堅物で知られる岡田氏がこうあいさつし、民主政権への協力を呼びかけた。ところが、である。岡田氏は昨年12月の臨時国会終了直後、周辺議員にこう豪語していたのだ。

「社民とは組まず、通常国会で3分の2は使わない」
民主党幹部は嘆息する。
「最悪のケースを考えていろいろと布石を打っておくのが幹事長の役割。それなのに、岡田氏は公明党と連携できると楽観し、何もや

「非小沢」はくだらない分け方

民主と社民両党は14日から11年度予算案の修正協議を始める予定だ。社民党の服部良一衆院議員はこう主張する。
「社民党が要求する普天間基地の移設関連経費を取り下げ、法人税5%引き下げを撤回できるのか。菅さんが腹を括れなければ、協力はできません」

自民党参院幹部は断言する。
「民主政権が基地関連経費を見直せば、米国は猛反発し日米関係は悪化します。社民党にしても普天間問題で連立離脱したのに、再び政権に協力してしまえば、

「非小沢」というのはくだらない分け方だ。親小沢といわれる輿石(東参院議員会長)さんを心から尊敬しています」(5日、山梨県昭和町で)

前原氏は会合に同席していた輿石氏をこう持ち上げた。反小沢急先鋒だったはずの前原氏の衝撃発言——大半の民主党議員は「単なるリップサービス」と見るが、民主党関係者は言う。

「首相になった場合、『参院民主のドン』輿石氏の協力は不可欠です。岡田氏は最近、輿石氏と頻りに顔を合わせたり、参院議員と食事をするなど良好な関係を築いている。岡田氏をけん制するため、前原氏はラブコールを送ったのです」

ラブコールの裏に前原氏の岡田氏への警戒心があるというのだ。「脱小沢」「前原vs.岡田」——権力闘争に明け暮れ八方塞がりの菅政権。3月危機は目前だ。3月といえば、お遍路巡りの季節。首相は政治の本質を学ぶべく、もう一度頭を丸めて再び遍路道を歩いて修行し直したらどうか。

本誌・武内 亮/田倉直彦